

「原子力リスク研究センター」の設置について

2014年10月1日
一般財団法人 電力中央研究所

一般財団法人電力中央研究所（理事長：各務正博、本部：東京都千代田区）は、原子力発電の自主的な安全性向上に必要な研究開発の拠点とすべく「原子力リスク研究センター」を、10月1日付で設置致しました。

(1) 福島第一原子力発電所事故を踏まえて今後も原子力発電を利用していくためには、常により高い安全性を目指すことが不可欠であり、そのためには事業者自らが規制を満たすのみでなく規制の枠組みを超えて、持続的にリスクの低減に取り組んでいく必要があります。

リスク低減には、大地震や大津波など、低頻度ではあるが大きな被害をもたらし得る事象に対して適切な対策を行い、事故発生確率を限りなく低くするとともに、万一事故が発生した場合にもその被害を最小限に抑えるようにすることが重要です。そのためには、低頻度の事象に起因する事故時の状況進展を的確に予測した対策を立案し、事象自体が大きな不確かさを伴うことを考慮して、PRA^{*注}などの確率論的手法も活用した総合的なリスク評価を行い、対策の有効性を確認することが必要となります。

(2) 当研究所は、これらの活動に用いる技術やノウハウを得るための研究開発の中核となるべく、これまで蓄積してきた関連分野の人材と研究基盤をより効果的に活用するために、今般「センター」として組織化しました。

(3) また、電気事業や産業界と一体となって研究開発と成果の活用のサイクルを回すべく、電気事業の経営層による原子力経営責任者会議を始め、各層において共同して検討していく体制を構築しました。

(4) さらに、同センターの活動においては国際的な協力の強化が重要となることも視野に入れ、原子力安全に係る世界最高レベルの高度な知見と強力なリーダーシップを有する方々に幹部等として参画頂きました。

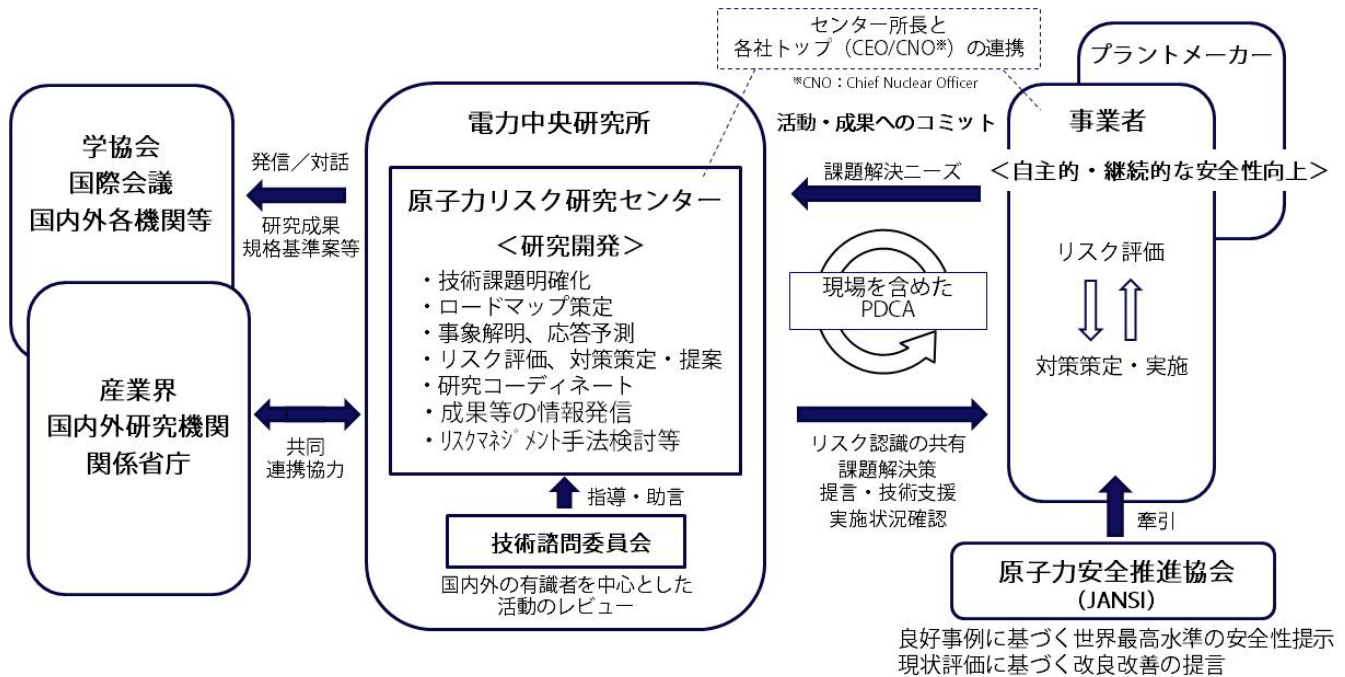
同センター所長には、マサチューセッツ工科大学名誉教授で、前米国原子力規制委員会（NRC）委員であり、「確率論的リスク評価」の分野で卓越した業績により2007年に全米技術アカデミーのメンバーに選出されている Dr. George Apostolakis（ジョージ・アポストラキス 博士）が就任します。

同センター顧問には、元 NRC 委員長、前米国カーネギー研究所理事長であり、2004年から現在まで国際原子力機関（IAEA）国際原子力安全諮問グループ（INSAG）議長を務めておられる Dr. Richard A. Meserve（リチャード A・メザーブ 博士）が就任します。

なお、国内外の有識者で構成する「技術諮問委員会」の委員長には、現在 NRC の原子炉安全諮問委員会（ACRS）議長で、リスク評価・信頼性評価の世界的権威である、Mr. John W. Stetkar（ジョン W・ステットカー 氏）が就任します。

以上

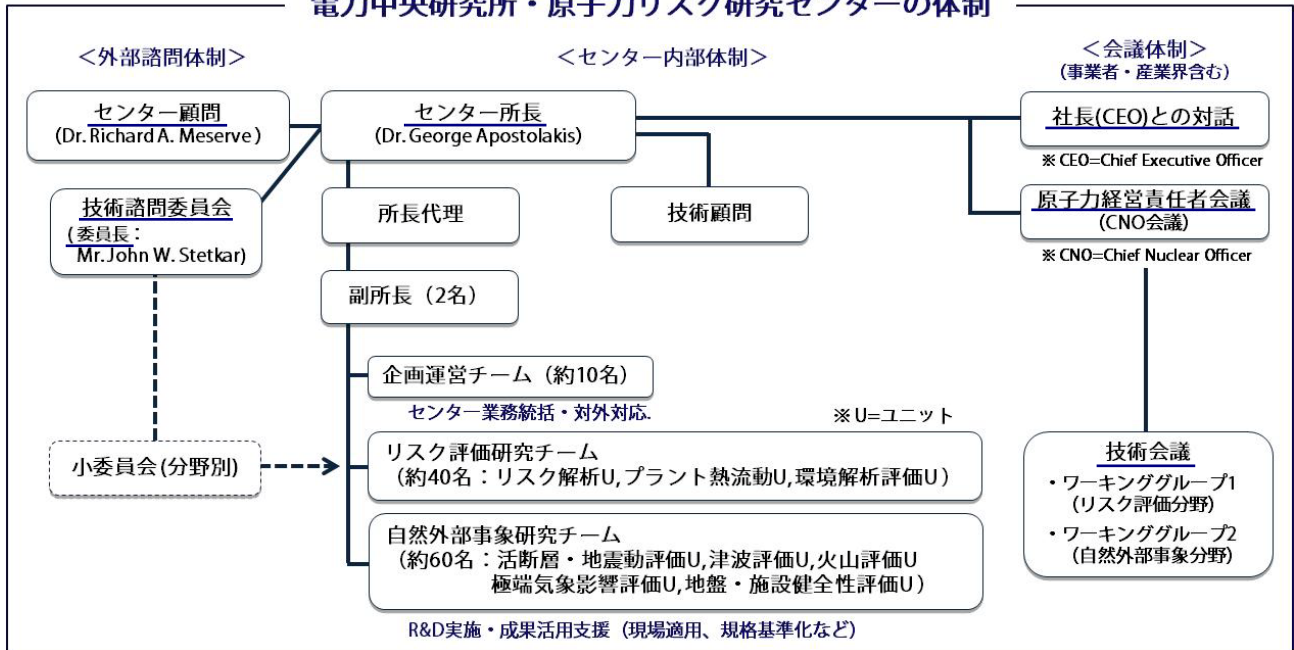
原子力リスク研究センターの活動



組織概要

- 名称：原子力リスク研究センター（英文：Nuclear Risk Research Center、略記：NRRC）
- 所在地：電力中央研究所 大手町地区（東京都千代田区）
（研究実施場所は、主として我孫子地区、狛江地区）
- 人員規模：約 110 名

電力中央研究所・原子力リスク研究センターの体制

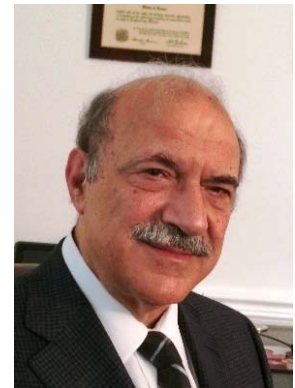


<参考：用語解説>

※注「確率論的リスク評価 (PRA: Probabilistic Risk Assessment)」:
確率論的リスク評価とは、原子力施設等で発生するあらゆる事故を想定した上で、その発生頻度と発生時の影響を定量的に評価し、その積の大きさで「リスク」を比較することにより安全性の度合いを表現する方法

■ 原子力リスク研究センター・所長等の略歴

センター所長：ジョージ アポストラキス 博士
(Dr. George Apostolakis)



- 1946年4月生
- 1969年 アテネ国立技術大学 電気工学専攻
- 1970年 カリフォルニア工科大学 M.S. (工学)
- 1973年 カリフォルニア工科大学 Ph.D. (工学・応用数学)
- 1974-1995年 カリフォルニア大学 ロサンゼルス校 教授等
- 1995-2010年 マサチューセッツ工科大学 教授
- 1995-2010年 米国原子力規制委員会 (NRC)
原子炉安全諮問委員会 (ACRS) 委員 (2001-2002 議長)
- 2007年 全米技術アカデミー選出 (確率論的リスク評価)
- 2010-2014年 米国原子力規制委員会 (NRC) 委員
- 2010-現在 マサチューセッツ工科大学 名誉教授

※参考

- ・国際ジャーナル「Reliability Engineering and System Safety」(信頼性工学とシステム安全) 編集長 (1986-2010)
- ・確率論的安全評価と管理に関する国際会議 (PSAM) を1991年に創設
- ・2014年2月 「確率論的リスク評価日米ラウンドテーブル」出席

センター顧問：リチャード A. メザーブ 博士
(Dr. Richard A. Meserve)



- 1944年11月生
- 1966年 タフツ大学 工学専攻
- 1975年 ハーバード大学 ロースクール
- 1976年 スタンフォード大学 Ph.D. (応用物理)
- 1977-1981年 大統領科学技術アドバイザー付法律顧問 (カーター政権)
- 1981年-1999年、2004年-現在
コヴィントン&バーリング法律事務所勤務
- 1999-2003年 米国原子力規制委員会 (NRC) 委員長
- 2003-2014年 カーネギー研究所 理事長
- 2004年-現在 IAEA 国際原子力安全諮問グループ (INSAG) 議長
- 2009-2012年 ブルー・リボン委員会委員 (米国の原子力の将来に関する専門委員会)

※参考

- ・2012年2月 東京電力福島原子力発電所事故調査委員会 (国会事故調) 第5回委員会 参考人
- ・2012年2月 東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会 (政府事故調) 第8回委員会「国際専門家招聘会議」出席
- ・2012年12月-現在 原子力規制委員会 国際アドバイザー

「技術諮問委員会」委員長：ジョン W. ステットカー 氏
(Mr. John W. Stetkar)

- 1951 年 3 月生
- 1973 年 マサチューセッツ工科大学 電気工学
- 1976 年 マサチューセッツ工科大学 M.S. (原子力工学/環境工学)
- 1978-1980 年 ザイオン原子力発電所 上級原子炉運転員
(Shift Supervisor)
- 1980-1993 年 PLG, Inc 上級コンサルタント (Senior Consultant)
- 1993-2001 年 PLG, Inc and EQE International, Inc
(Associate Senior Consultant)
- 1993 年-現在 Stetkar & Associates 社長
- 2007 年-現在 米国原子力規制委員会 (NRC)
原子炉安全諮問委員会 (ACRS) 委員 (現議長)



※参考

- ・ リスク評価、信頼性評価、資源最適化の分野において国際的な権威
- ・ 15 以上もの主要原子力発電プラントのリスク評価において技術面で指導的な役割
- ・ 複数の技術レビュー委員会に従事し、米国原子力規制委員会の Reactor Risk Reference Study NUREG-1150 を含む 20 以上ものリスク評価を実施

以上

＜ 原子力リスク研究センターの研究内容等につきましては、
2014/6/13 発表の添付プレスリリース資料をご参照ください ＞

お問合せは、[こちら](#) からお願いいたします。

※本件は、エネルギー記者会・経済産業記者会・経産省ペンクラブ・原子力規制庁記者クラブ 他にご案内致しております。